

※サムスン電子(韓国本社)配信のコンテンツを翻訳した内容です。
※使用できる機能は国・地域・OS バージョン、デバイスのモデルなどによって異なります。

<報道関係者各位>

Samsung、AI インフラ企業 Helix に 10 億米ドルを出資

～AI インフラ全体にわたる Samsung グループ各社の高い技術力が、Helix との今後の強固な協業基盤を築く～

サムスン電子株式会社(韓国本社、以下 Samsung)および Samsung C&T、Samsung SDS、Samsung SDI、Samsung 生命(Samsung Life Insurance)、Samsung 火災海上保険(Samsung Fire & Marine Insurance)のグループ 6 社は、2026 年 9 月 29 日、世界的投資会社 KKR が設立した AI インフラ企業「Helix Digital Infrastructure(以下、Helix)」に対し、総額 10 億米ドルを共同出資することを発表しました。

2026 年 6 月に設立された Helix は、ハイパースケール・データセンターの開発から運営、基幹・調整電源を含む発電施設、送配電インフラ、さらには光ファイバー通信網に至るまで、バリューチェーン全体を網羅する統合ソリューションを提供する次世代の AI インフラ企業です。

ハイパースケーラー(大規模クラウド事業者)各社は Helix のソリューションを活用することで、急拡大する AI 需要への対応に不可欠な大規模かつ包括的なインフラを迅速に確保できるようになります。

Helix は、Amazon Web Services(AWS)の元 CEO である Adam Selipsky 氏が率いており、データセンターおよび電力業界の第一線で活躍するトップエキスパートによる強力な経営体制を構築しています。また、約 170 名の専任プロフェッショナルを擁する KKR の世界有数のインフラ事業における人材やノウハウも最大限に活用して事業を展開しています。

なお、Helix の初期投資家には、Samsung のほか、KKR、クウェート投資庁(KIA)、NVIDIA、米国の電力大手 Vistra が名を連ねています。

■新たな産業エコシステムの中核プラットフォームへと進化する AI データセンター

AIデータセンターは、単なるインフラ設備への出資という枠組みを超え、中核的なビジネスプラットフォームへと急速に進化しています。現在では、GPU-as-a-Service(GPUaaS)やソブリンAI(Sovereign AI)、コロケーションサービスなど、多様かつ付加価値の高いビジネスモデルを統合する存在となっています。

これらのデータセンターの急拡大は発電、冷却技術、半導体、金融など多岐にわたる分野を巻き込んだ大規模な産業エコシステムの創出を後押ししています。今回のSamsungグループ各社による出資は、この新たなインフラ市場において次世代AI分野のリーダーシップを確保するという各社の戦略的コミットメントを示すものです。

AI サービスが人々の日常生活やあらゆる産業に深く浸透するにつれ、膨大な計算処理を担うデータセンターと、それを安定的に稼働させるための専用電力インフラに対する需要が大幅に増加しています。データセンターを「AI 時代の生産拠点」とするならば、電力はそれを動かす「燃料」です。そのため、コンピューティング基盤と電力インフラを同時に確保できるかどうか、AI ビジネスにおける競争優位性を決定づける重要な要素となっています。

Helix の投資戦略は、データセンターの展開とその基盤となる電力インフラの双方をターゲットとしており、まさにこの市場競争の核心を突くものです。同社は、電力供給の確保が現在の AI インフラ構築における最大の遅延要因であることを認識しており、自社による直接投資や出資企業である米電力大手 Vistra をはじめとする主要エネルギー企業との戦略的パートナーシップを通じて、必要な電力容量を迅速に確保する計画です。

今回の共同出資は、Samsungグループ各社にとって極めて重要な節目となります。同グループが誇る世界最高水準のハードウェアおよびコンポーネント技術を活用し、システムやインフラレベルでの影響力を確固たるものにすることが期待されます。Samsungは今後、従来のハードウェア部品サプライヤーとしての枠を超え、グローバルなAIインフラ・エコシステムを牽引するアーキテクトとして、その役割を積極的に拡大していく方針です。

■グローバルな AI インフラ構築の中核を担う、全レイヤーを網羅する Samsung の技術力

Samsung の DS (Device Solutions) 部門は、最先端の半導体ソリューションを通じてグローバルなインフラ構築を支援し、世界的な需要の変化にタイムリーに対応します。

Samsung の DX (Device eXperience) 部門は、2025 年に買収したデータセンター向け空調 (HVAC) に特化した子会社である FläktGroup を通じて、空冷システムから液冷用の冷却水分配装置 (CDU) に至るまで、データセンター向け冷却製品およびソリューションの包括的なポートフォリオを提供しています。また、世界 14 カ所の生産拠点と 65 カ国にわたる供給・サービス網を活用することで、ハイパースケーラーが求めるインフラ拡張のニーズに対し、スピードと柔軟性をもって対応します。

Samsung C&T (建設部門) は、データセンターおよび発電施設における設計・調達・建設 (EPC) を担うコントラクターとして、大規模なインフラプロジェクトを積極的に推進しています。

IT ソリューションプロバイダーである Samsung SDS は、データセンターの設計・構築・運営も手掛けており、近年では GPUaaS 事業にも参入しています。同社は韓国で最も優れた PUE (電力使用効率) 水準を誇り、これを自社のデータセンターだけでなく、Korea AI Computing Center (KOACC) の運用にも適用しています。

Samsung SDI は、24 時間体制で高性能サーバーを稼働させるデータセンターに不可欠な無停電電源装置 (UPS) およびバッテリーバックアップユニット (BBU) において、世界トップクラスの技術力で高く評価されています。同社は、超高出力かつ大容量のバッテリー技術が不可欠となる同分野において、新たなビジネス機会の開拓を進めていく計画です。

今回の出資を通じて、Samsung およびグループ各社は、Helix とともにグローバルな AI データセンターの展

開を加速させると同時に、参画企業間における協業のシナジーを最大化することを目指しています。

●「Samsung Galaxy」は Samsung Electronics Co., Ltd.の商標または登録商標です。

●その他、記載されている会社名、商品名、サービス名等は、各社の商標または登録商標です。